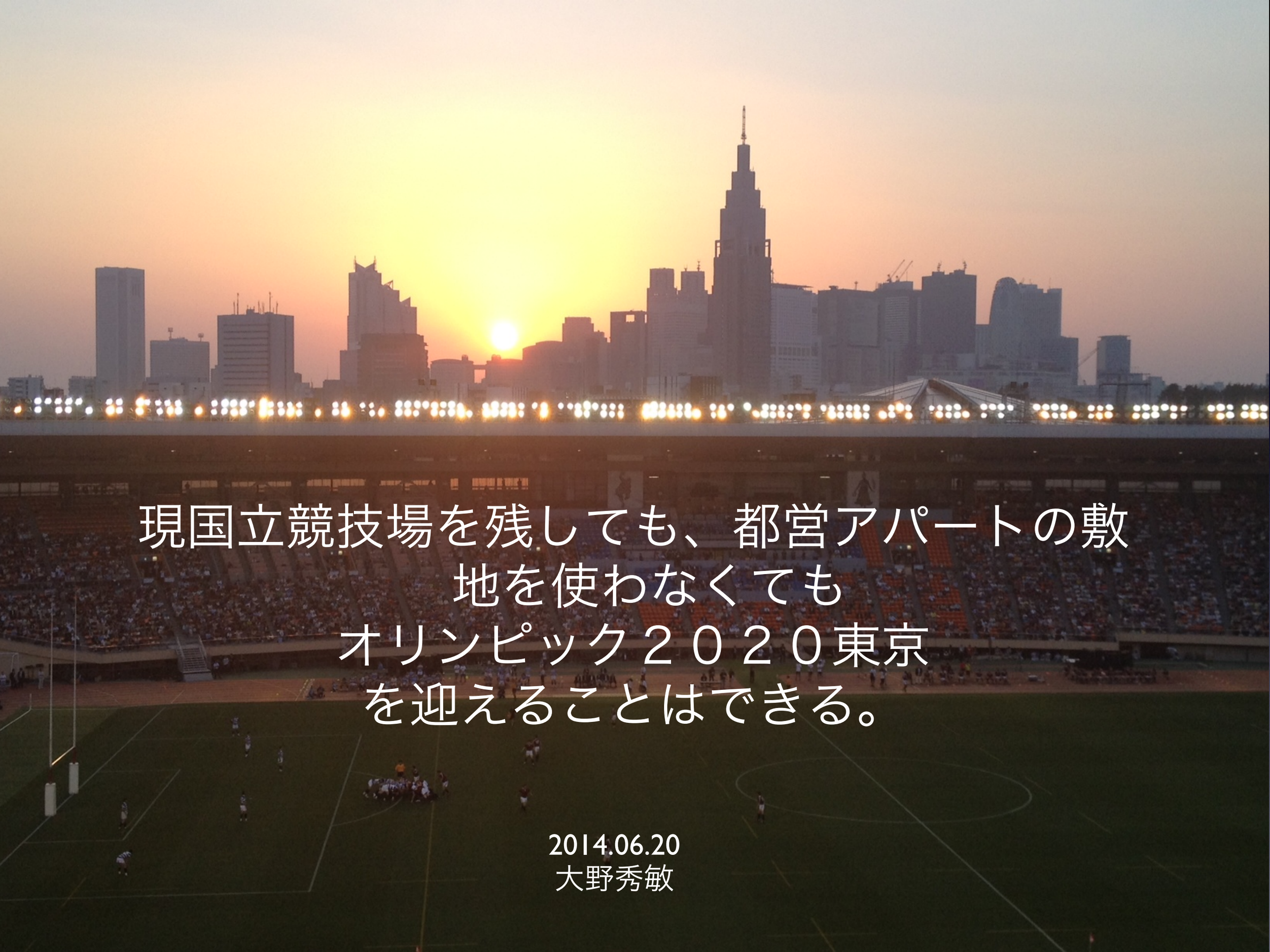
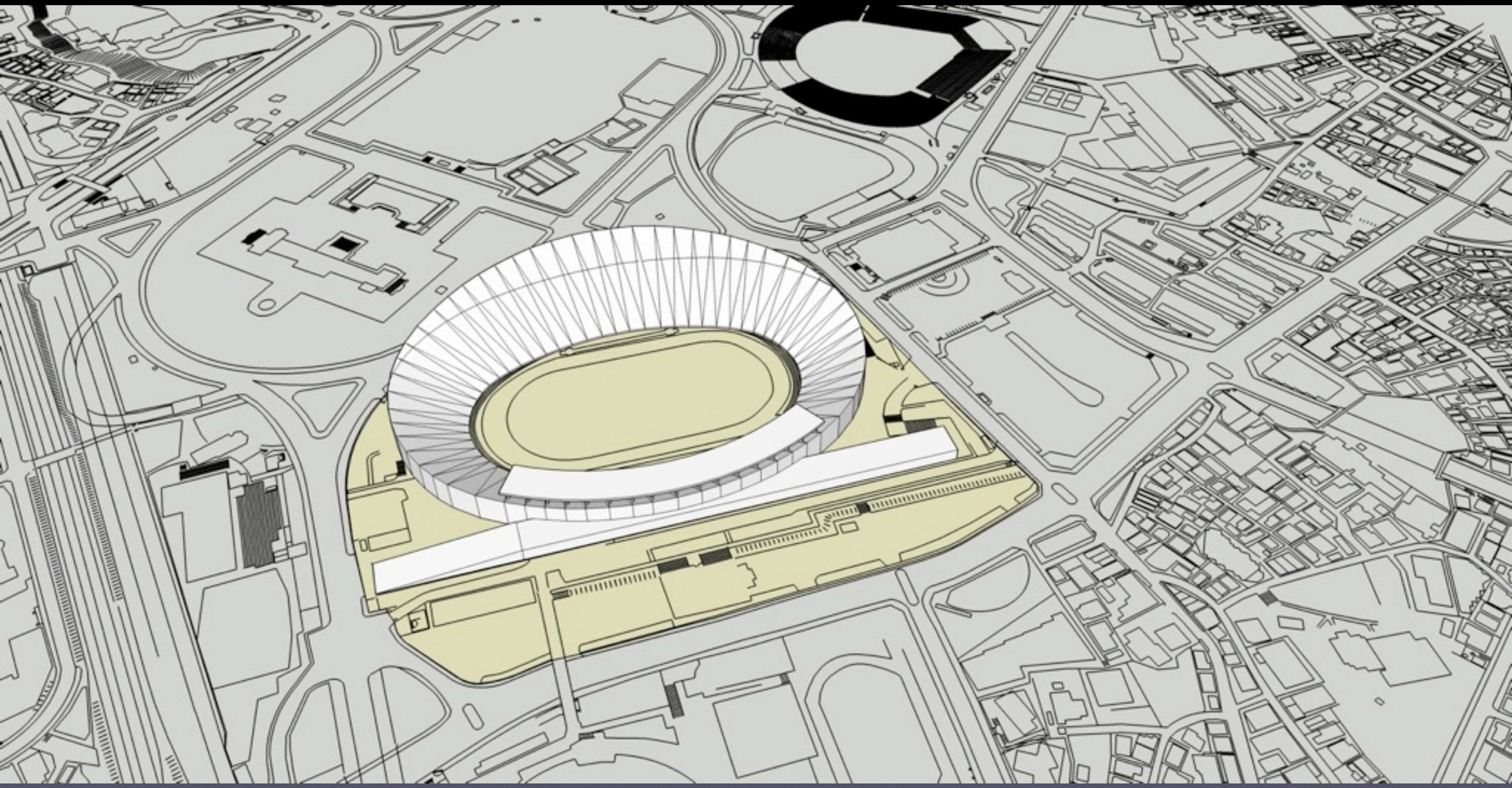


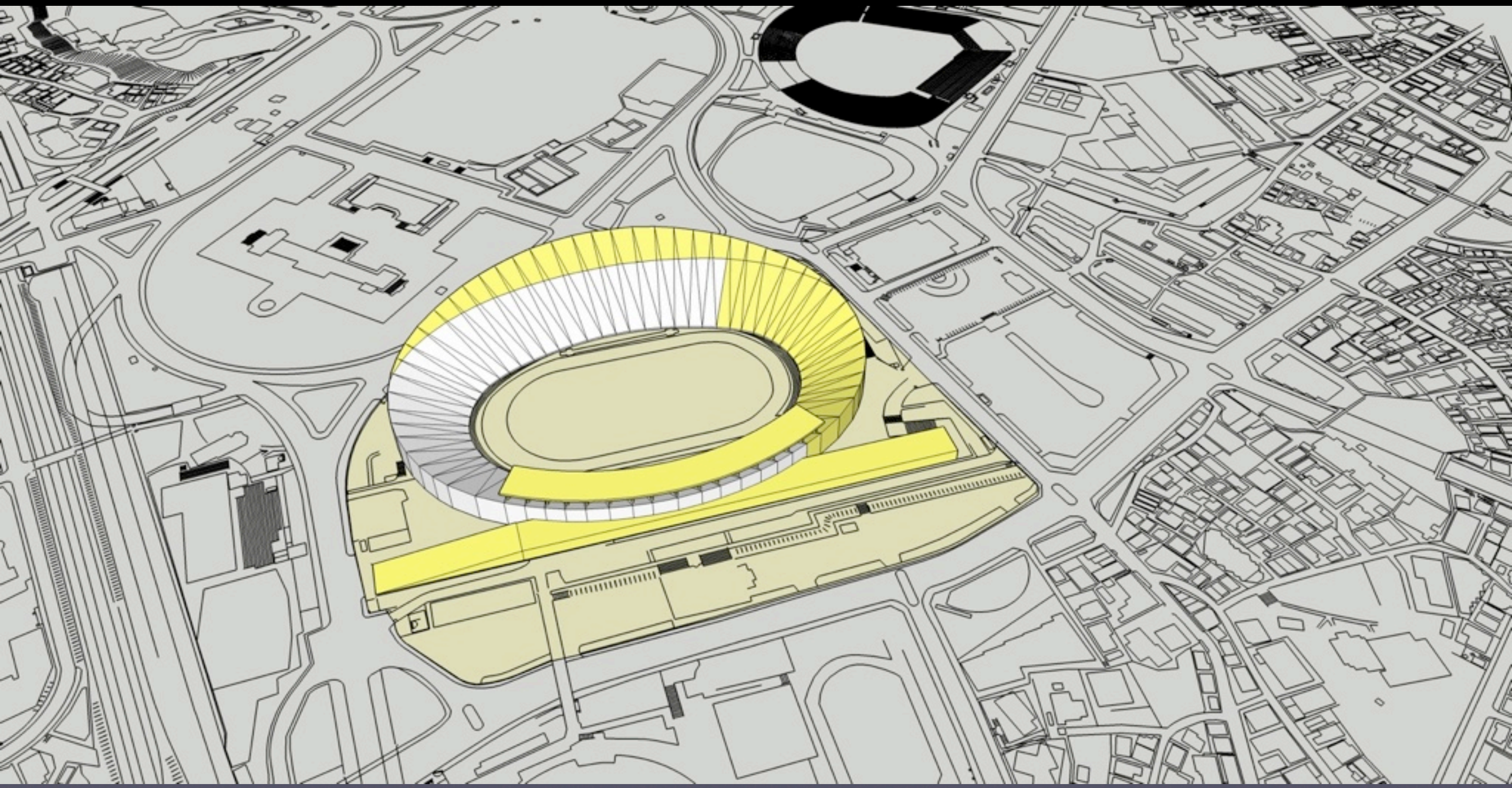
現国立競技場を残しても、都営アパートの敷地を使わなくてもオリンピック２０２０東京を迎えることはできる。

2014.06.20

大野秀敏

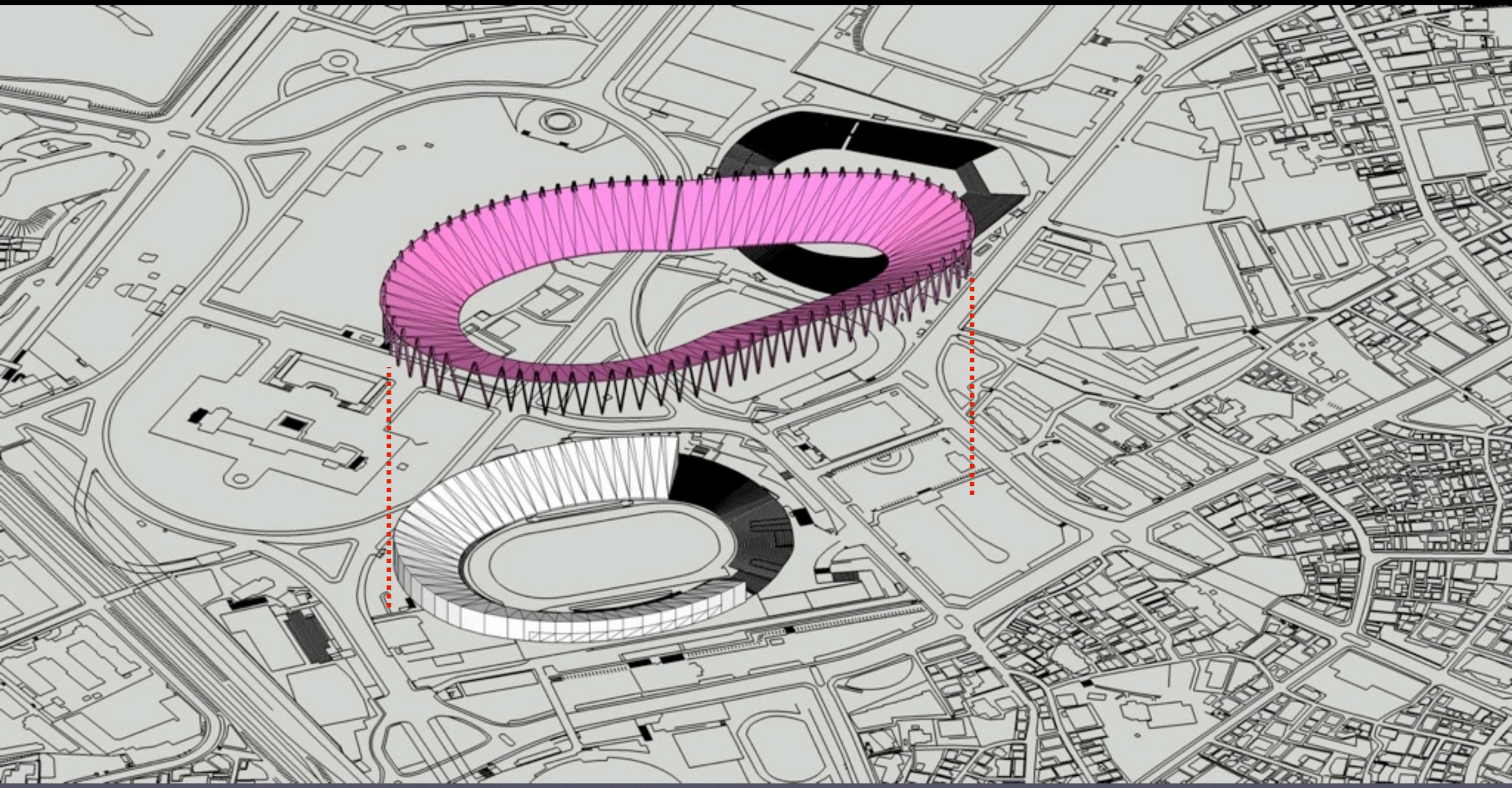


現国立競技場　座席数約54,000席



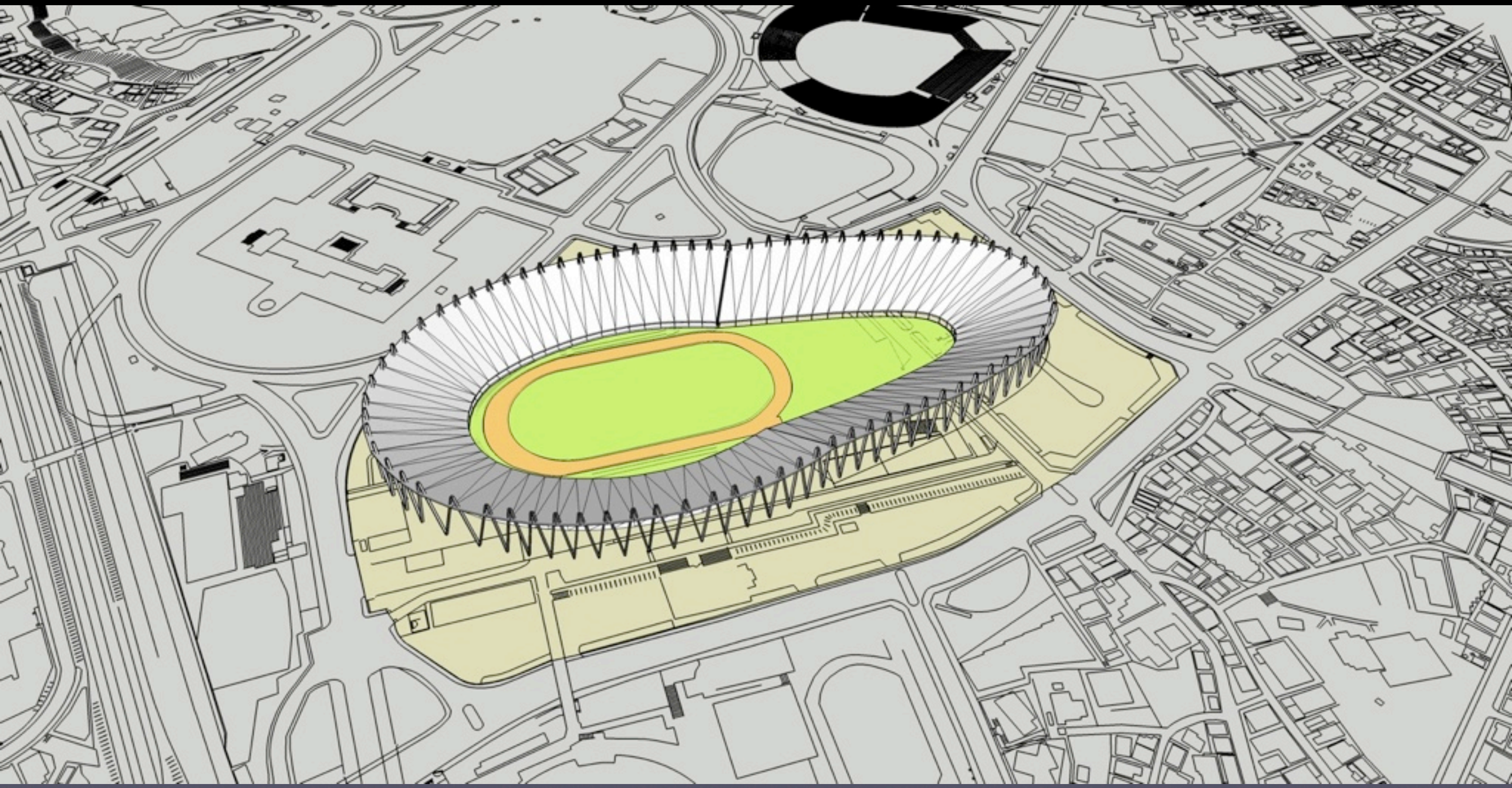
改修工事 1：東側1964観客席年増設部分・屋根・低層部・南側４分の１を撤去

開催シナリオ１（73000席で開催）



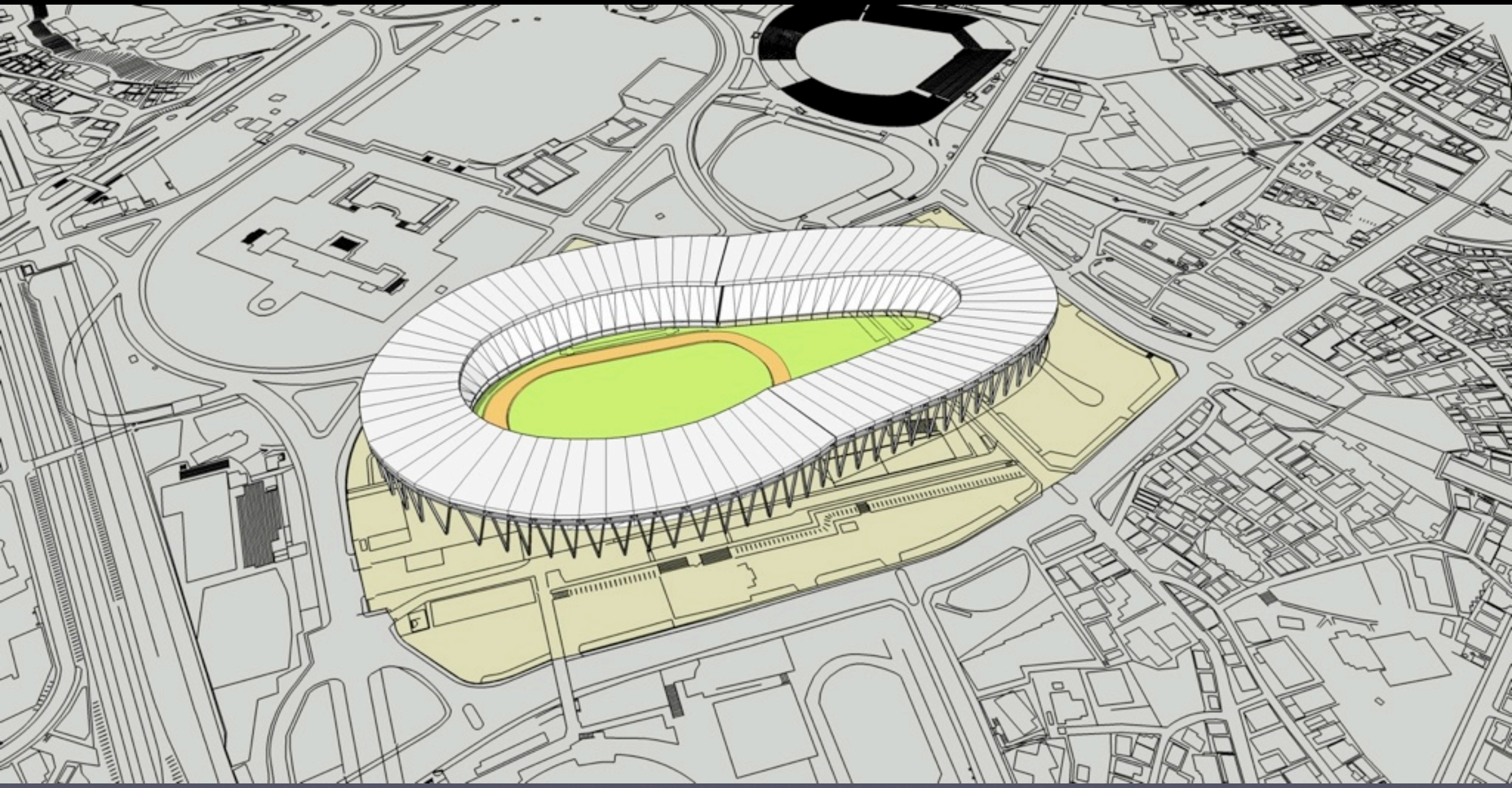
改修工事２：現競技場の上に座席を新設（本設）＋明治公園を敷地に編入して
仮設で拡張

開催シナリオ１（73000席で開催）

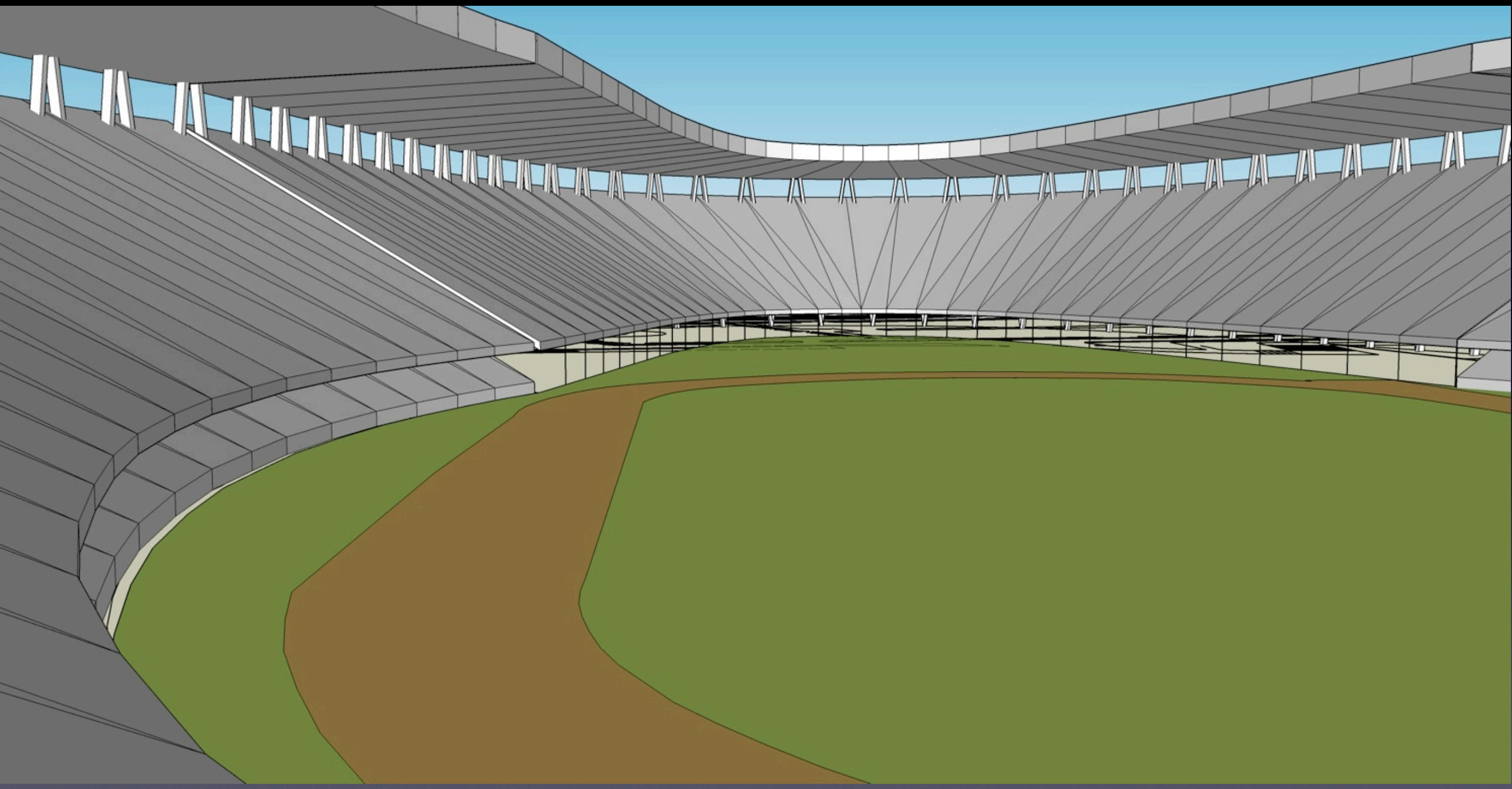


オリンピック開催時の観客席：左本設、右仮設とアリーナの形状
→73,000席（一席当たり面積現状より１０％プラス）

開催シナリオ１（73000席で開催）

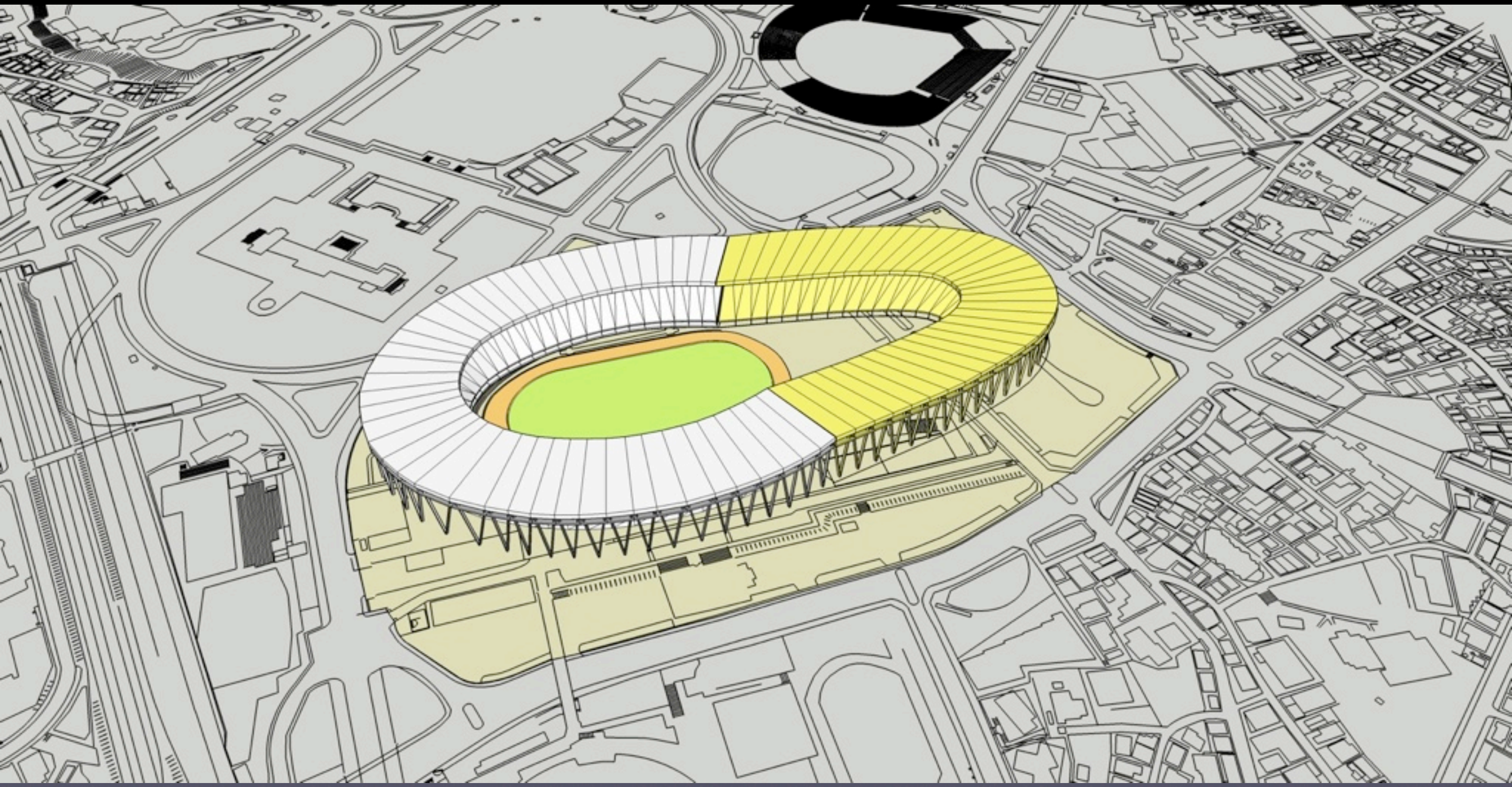


オリンピック開催時の屋根：観客席を全部覆う。アリーナは開ける



オリンピック期間中　本設座席から仮設座席への眺め

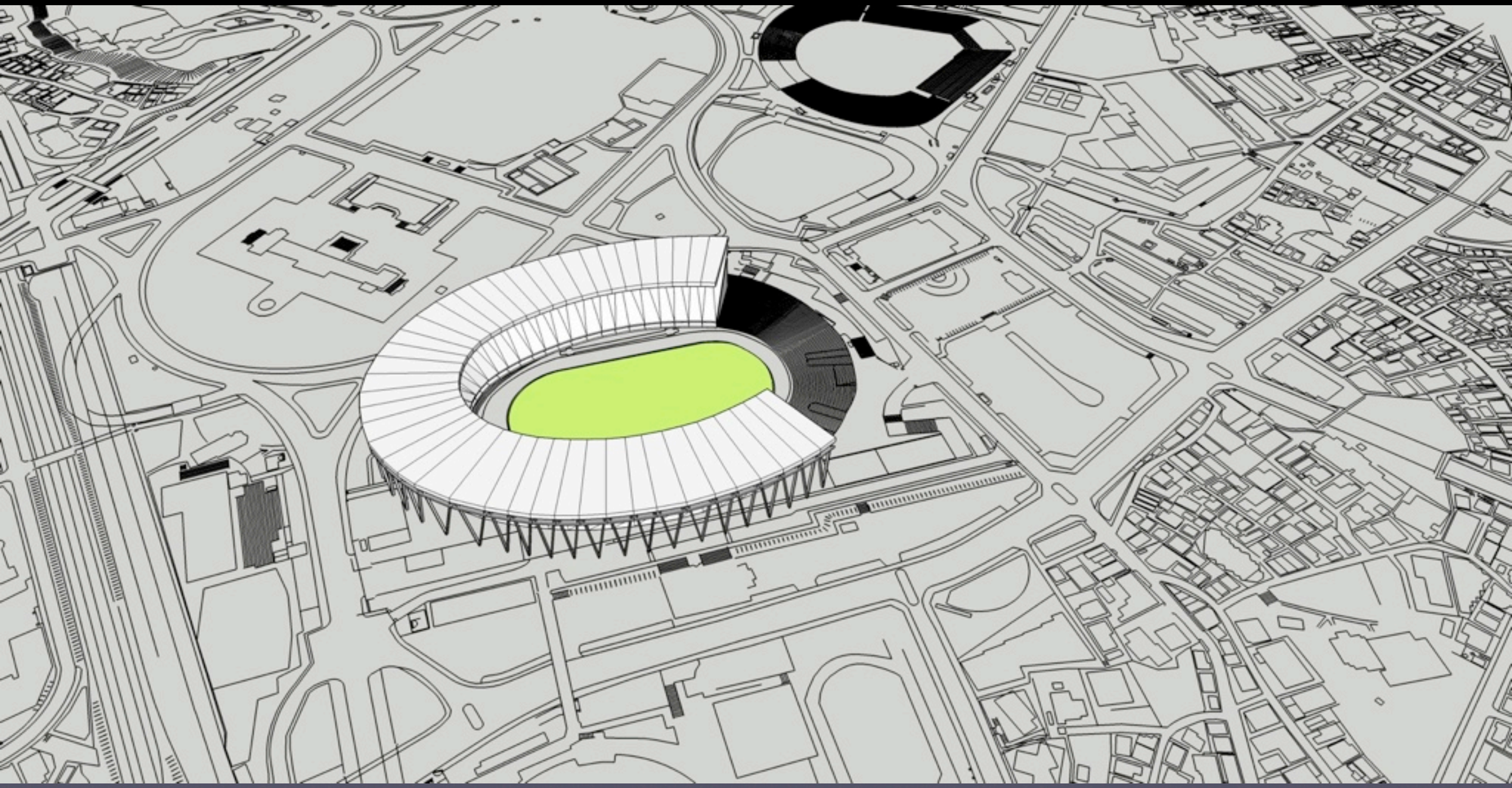
開催シナリオ１（73000席で開催）



仮設観客席解体

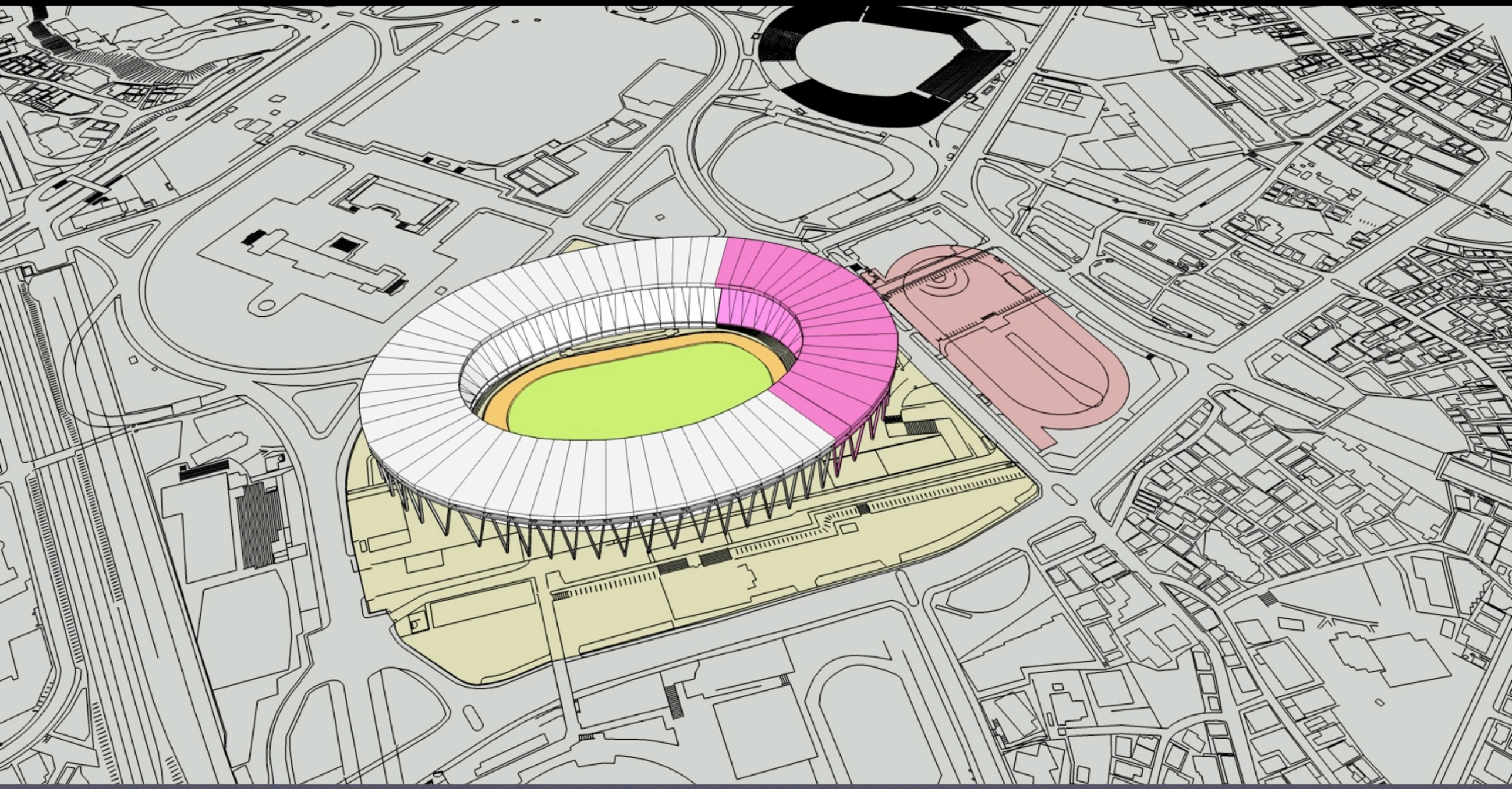
オリンピック終了後南側仮設部分を解体

開催シナリオ１（73000席で開催）



仮設観客席解体
南側仮設拡張部を撤去

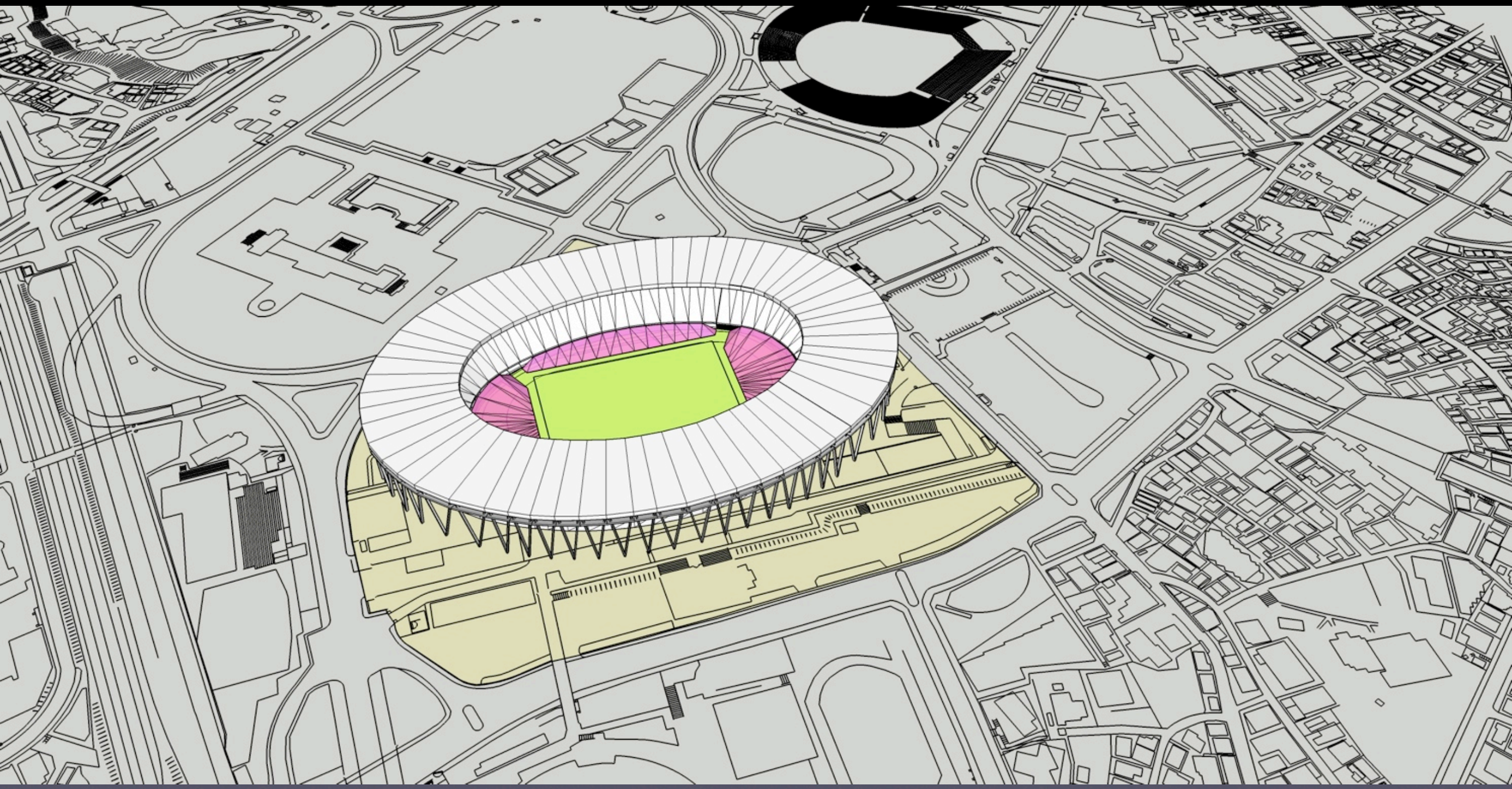
再整備シナリオ１



南側に本設の座席を設ける　→本設座席合計　59,000人収容

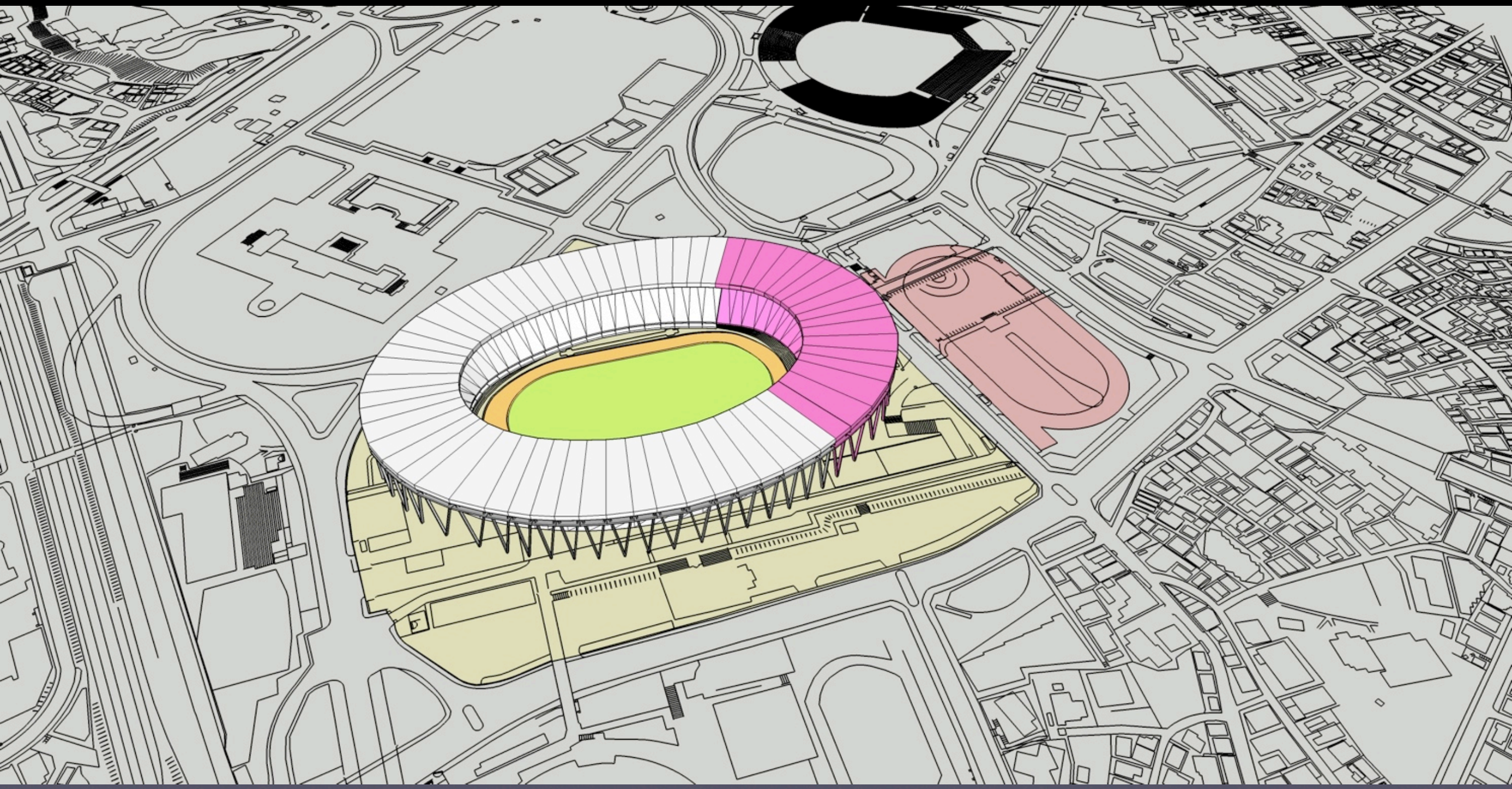
陸上競技開催をめざして明治公園にサブトラック400mを設ける

再整備シナリオ２

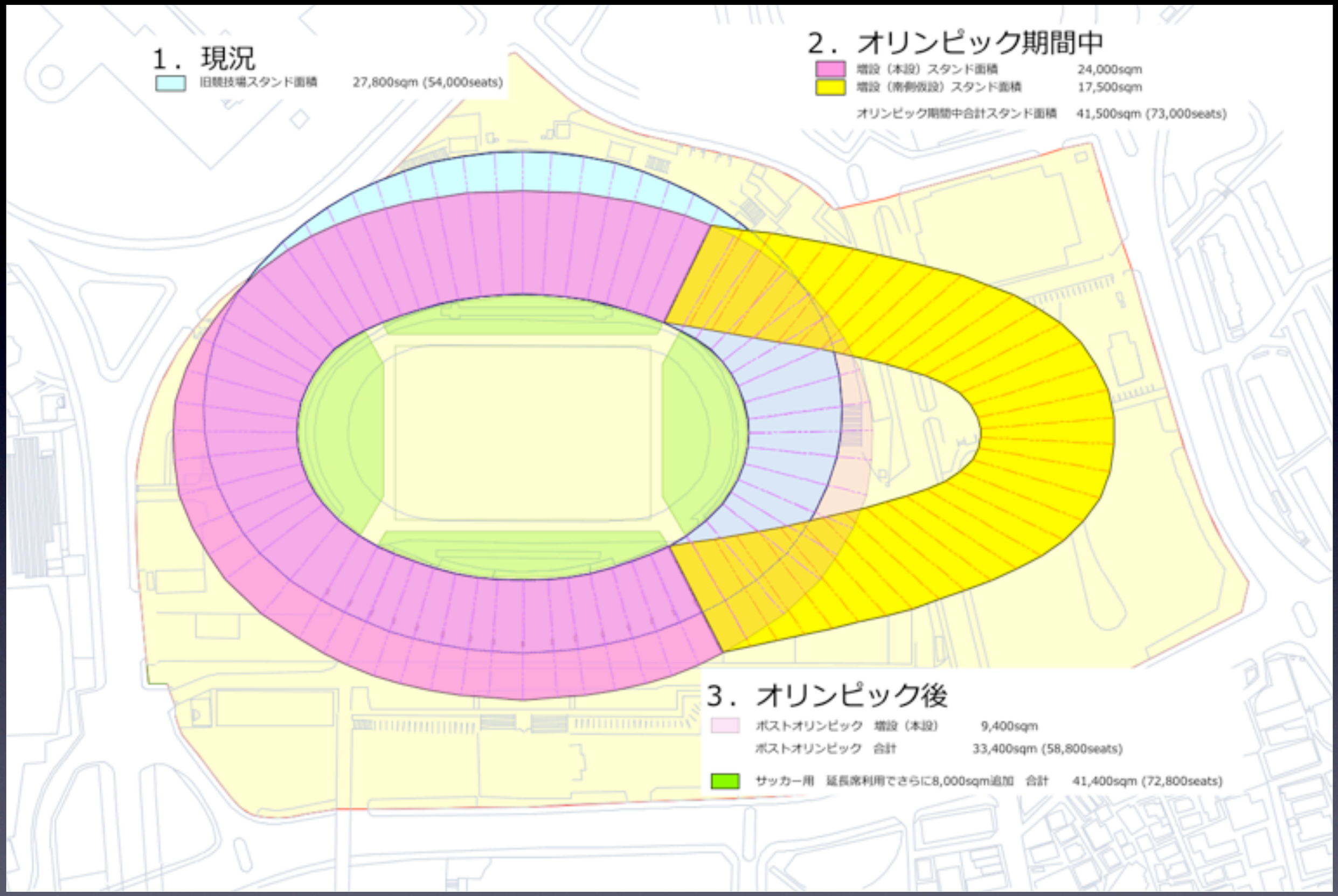


サッカー専用競技場として再整備、明治公園最整備
南側に本設スタンドを整備、陸上トラック上に客席を追加（14,000席）して72,800席

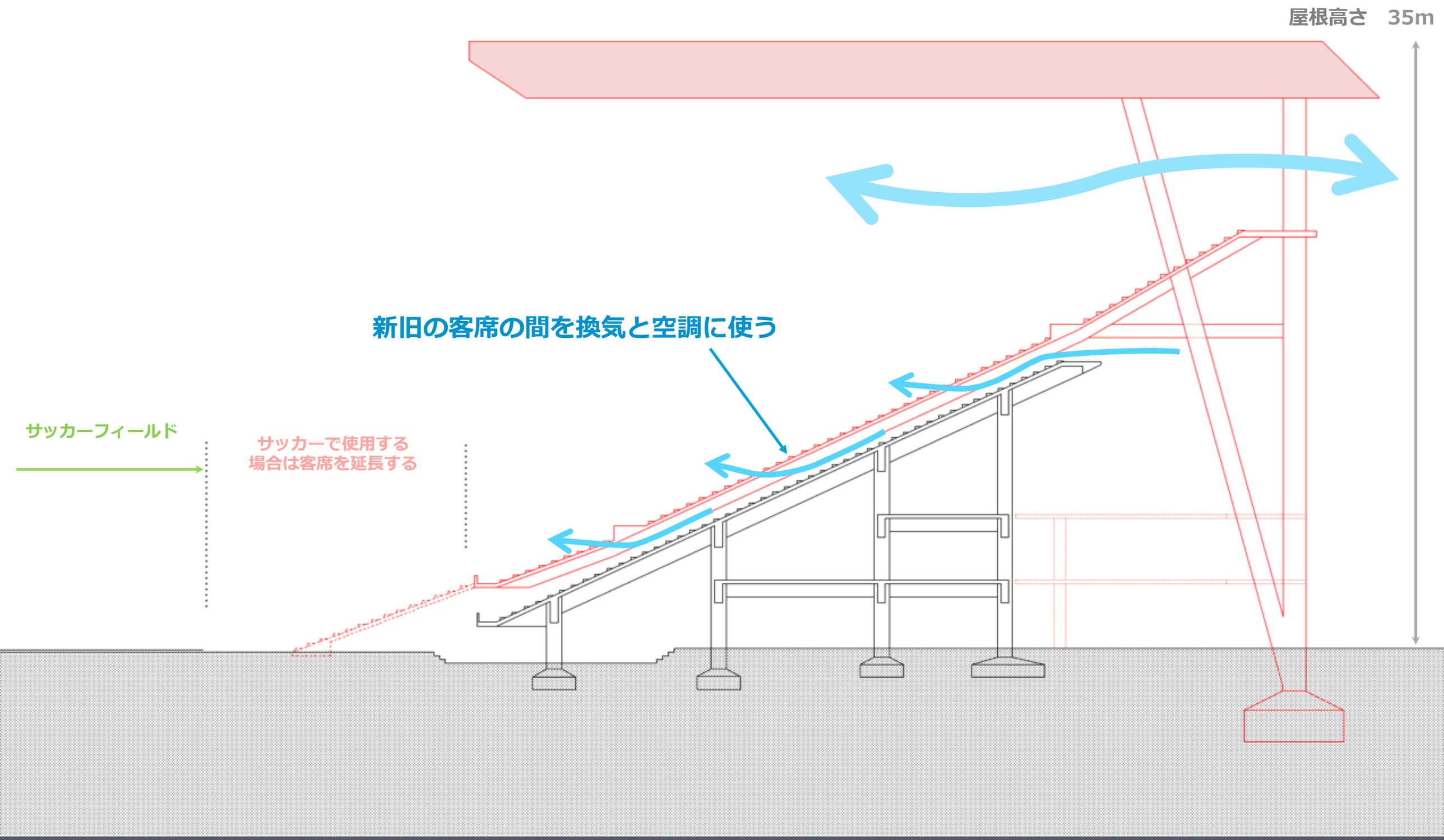
開催シナリオ２（59000席で開催）



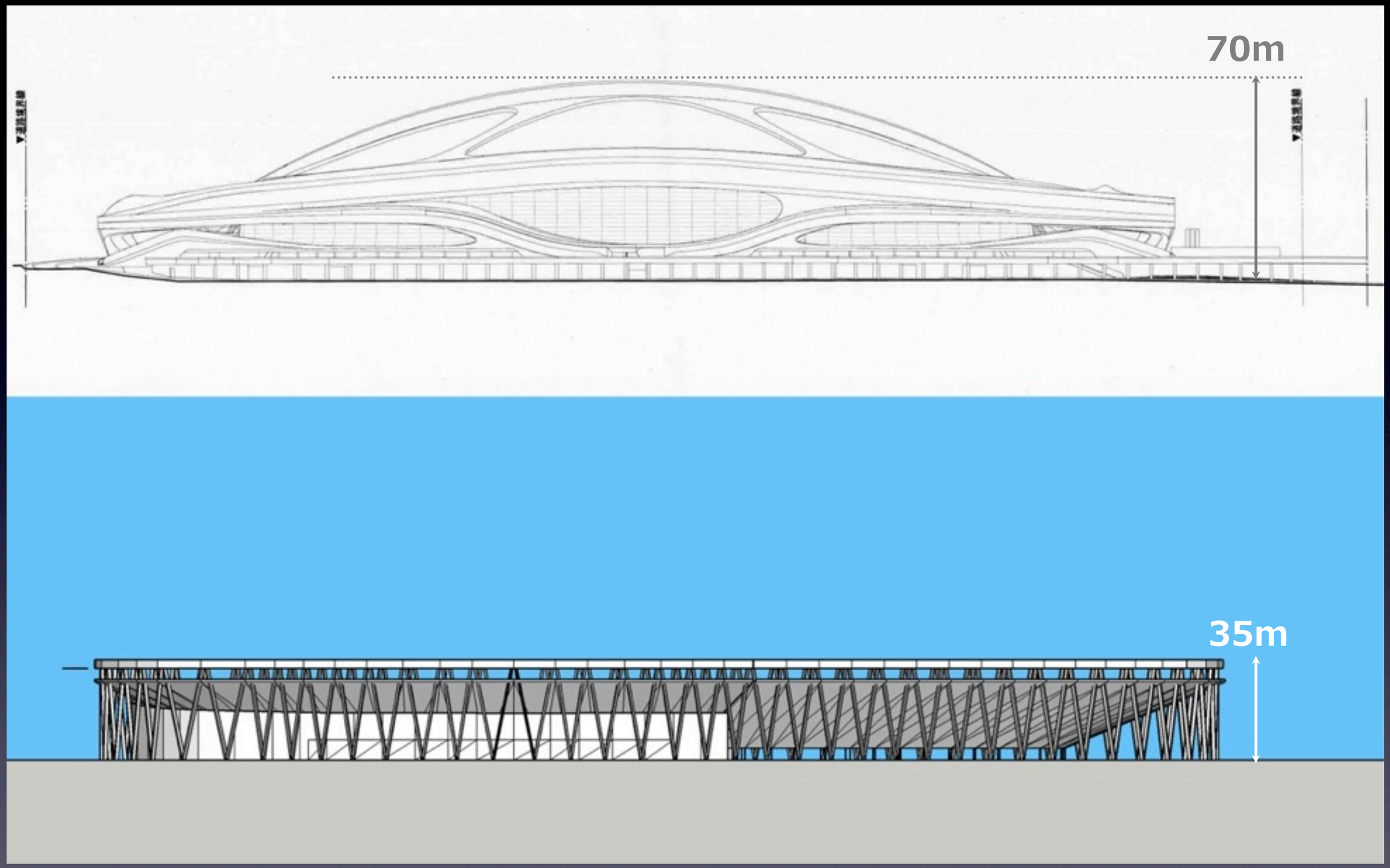
最初から全て本設として　59,000人収容のスタジアムと明治公園に
サブトラック400mで開催


1．現況
旧競技場スタンド面積 27,800sqm (54,000seats)
2．オリンピック期間中
増設（本設）スタンド面積 24,000sqm
増設（南側仮設）スタンド面積 17,500sqm
オリンピック期間中合計スタンド面積 41,500sqm (73,000seats)
3．オリンピック後
ポストオリンピック 増設（本設） 9,400sqm
ポストオリンピック 合計 33,400sqm (58,800seats)
サッカー用 延長席利用でさらに8,000sqm追加 合計 41,400sqm (72,800seats)

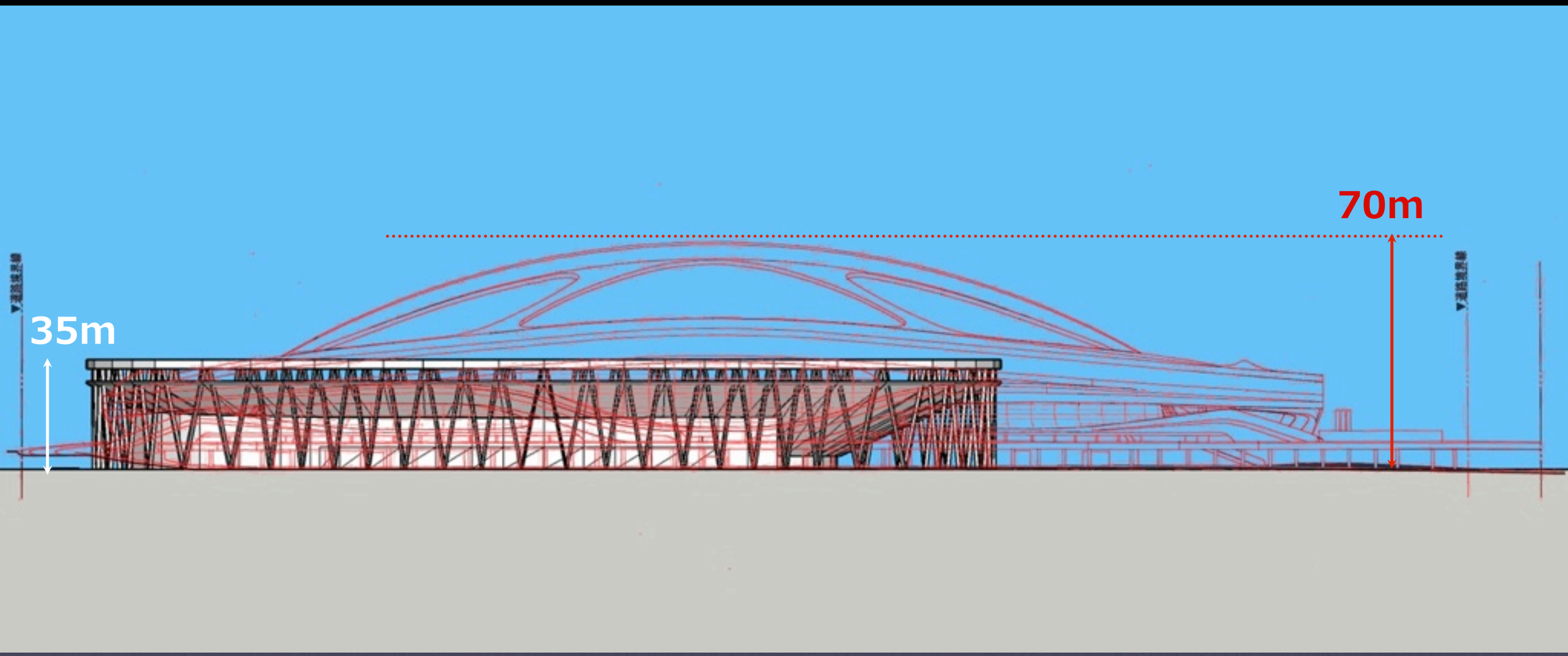
比較平面図



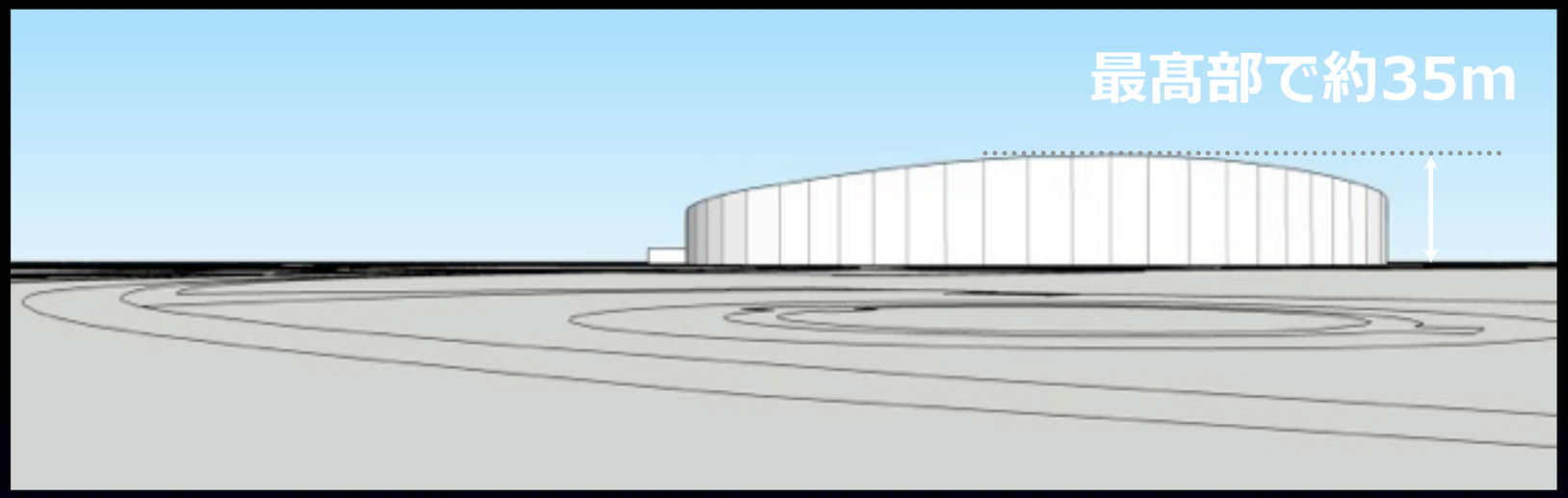
断面概念図：現状のRC観客席の上に鉄骨造の新観客席を重ねることで,現競技場の一部保存、一人当たり観客席面積１０％増の高仕様、旧躯体の耐震補強、新旧の床の間の空調・換気利用を実現



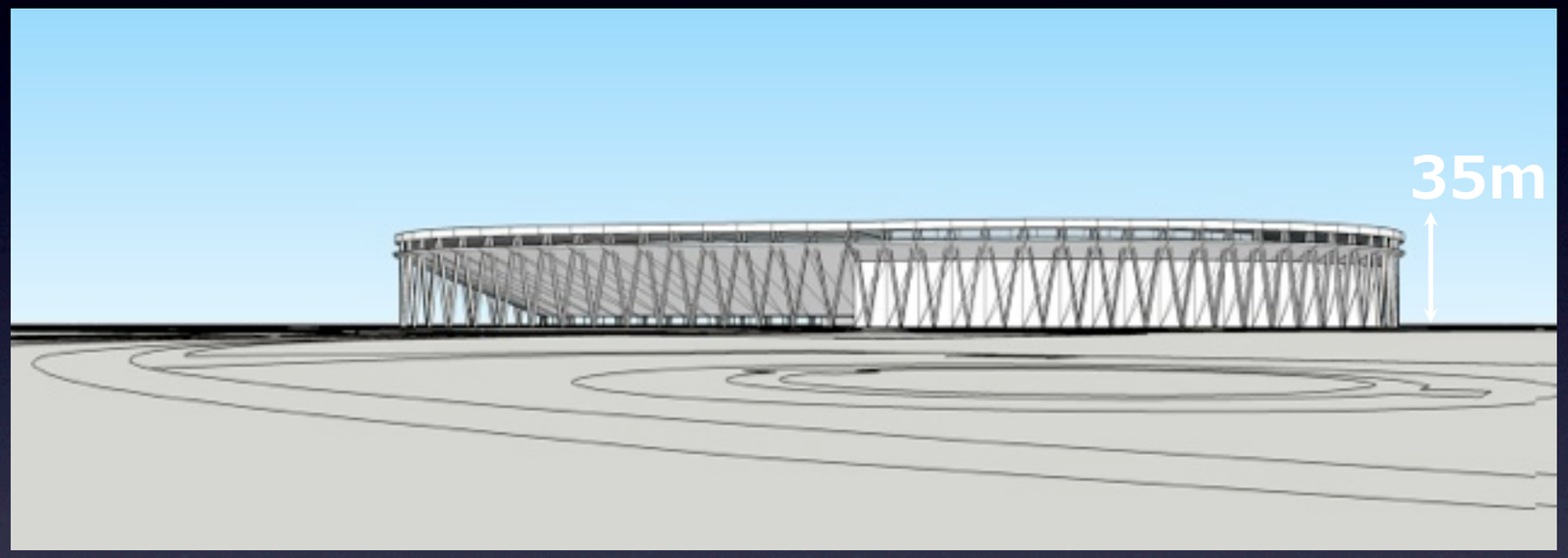
西側からの立面図（オリンピック開催中）



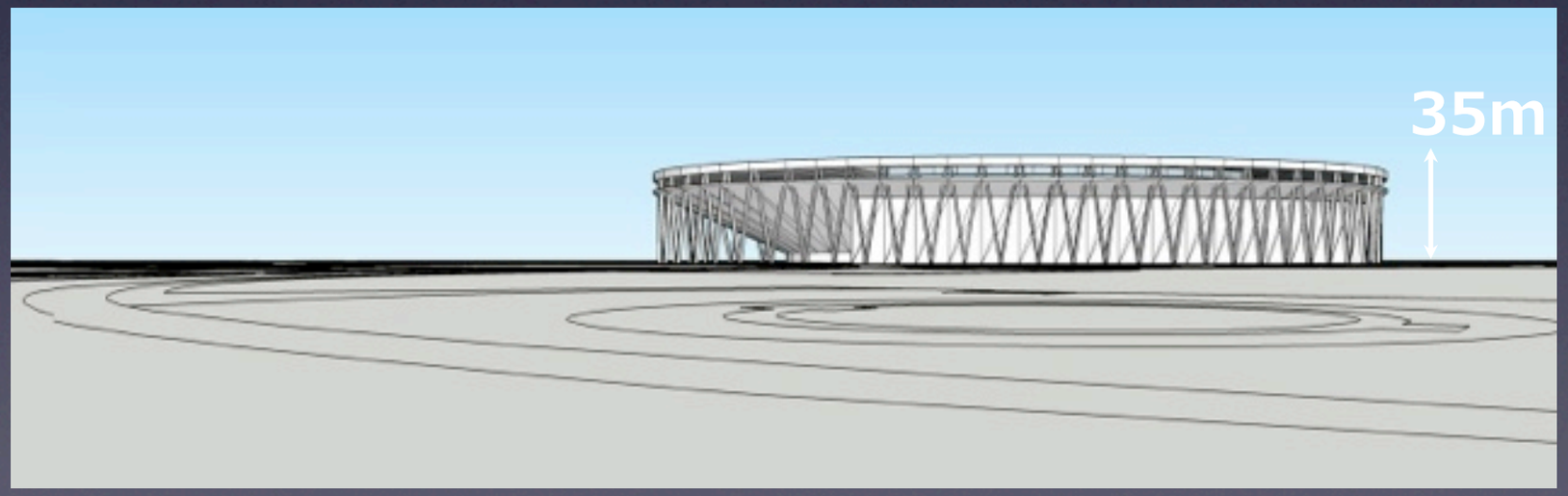
西側からの立面図（オリンピック語再整備）



現在の競技場のスカイライン



オリンピック開催中
左側が仮設



オリンピック後

外苑銀杏並木からの眺め